



ひろせ 広瀬



一年中、四万十川の匂いが漂う集落
広瀬集落は十川から国道381号線を下り、平成7年に完成した、川平トンネル入口を左に折れ旧道を約2キロメートル行ったところにある。上、中、下と3つに分かれ、50世帯129人が住み対岸の井崎集落と合わせて広井地区とも呼ばれる。



お茶、シシトウ農家が多い。

四万十川の中流域にあり、一年中、川との関わりは深く、好漁場もあり、シーズンには釣り人で賑わう。上流の景観とは異なり、雄大な四万十川が集落の眼前に広がる。上流域より、一段と川の匂いが濃いようない気がする。

草刈りの農作業で休みしている人に話を聞いた。1年位前に大阪から定年退職してここに帰ってきたが子どもものころより、四万十川の汚れが目立つと話す。

休校で地域から子どもたちの声が消える
集落のほぼ中央部の小高い所に昨年3月に休校した広井小学校がある。明治8年に開校して130年間、地域の子どもたち

た神社がある。



の音が聞こえていた。
 学校の入口には最後の卒業生9人が描いた似顔絵が飾られており寂しさを誘う。

子どもたちの成長を願った牛神様
広井大橋のたもとを右に折れ、少し上ったところに、牛の神様を祭った祠がある。



これは、広井小学校の新校舎が落成した平成16年に当時の先生、地区民一体となつて子どもたちが健やかに成長するよう祈願して建てたものだといふ。ここからは、対岸の井崎集落が一望できる。

誰でも使える炭焼き小屋



大橋すぐ近くの道端で炭焼き小屋が目にとまった。地区の人なら誰でも、気軽に炭を焼かしてくれるそうだ。以前には学校の体験学習にも使ったこともあるとのこと。持ち主へのお礼は酒一升だつたり、まちまちだそうである。

今なお残る集落の温かいつながりが感じられる。